

# 大豆作に向けて



～基本技術を徹底し、収量改善を～

## (1) 排水対策

ここ数年、大豆の播種時期が長雨と重なり、予定通り播種を行えないことが多くなっています。降雨後でも、できるだけ早く播種作業ができるように、ほ場の排水対策を行きましょう。

- 周囲溝が繋がっているか点検しましょう。排水性が特に不良なほ場では、ほ場内排水溝（10m 間隔、幅 20cm、深さ 20cm 程度）を施工しましょう。
- ほ場が乾きにくい場合は、浅耕（5cm 程度）を行い、乾燥を促進しましょう。
- 雨が続く場合は、耕起後にできる限り早く播種を行きましょう。

## (2) 連作障害対策

麦大豆連作ほ場では pH や窒素肥沃度の低下が起こりやすくなります。土壌状態を考慮した計画的な土づくりを行いましょ

- 根粒菌が活動しやすい土壌 pH6.0～6.5 を目標に、土壌改良資材を施用しましょう。

### ○土壌改良資材の効果

| 資材名  | pH1.0 上げるための必要量 |           | 特徴   |
|------|-----------------|-----------|--|
|      | 灰色低地土           | 黒ボク土      |  |
| 苦土石灰 | 130kg/10a       | 250kg/10a | ・ 施用後、直ちに作付けが可能<br>・ 苦土(Mg)も補給<br>・ 粒状はやや遅効性 |

- 大豆は地力窒素を多く吸収するため、堆肥などの有機質資材を施用しましょう。

### ○大豆栽培に適した土づくりのための有機質資材の種類と施用量

| 有機質資材       | 施用量(10a あたり) |
|-------------|--------------|
| 牛ふん堆肥、豚ふん堆肥 | 1～2t         |
| 発酵鶏ふん       | 100～200kg    |
| 粃殻堆肥        | 1～2t         |
| 麦わら         | 500kg 程度     |

「大豆の単収向上のポイント（東海ブロック版）」より

## (3) 雑草対策

アサガオ類やホオズキ類などの発生期間が長く、1 回の除草剤処理では防除が難しい雑草が増えています。播種後の土壌処理除草剤に加え、中耕や茎葉処理除草剤を組み合わせることで草種に応じた対策を行いましょ

- 表土の碎土率が悪いと土壌処理除草剤の効果が低下するため、碎土はしっかりと行いましょう。
- 除草効果を十分に発揮するため、ラベルに表示されている散布量を守りましょう。

## (4) 吸汁性カメムシ類対策

近年、伊勢平坦地域ではミナミアオカメムシの発生が急増しており、大豆の被害粒（子実の萎縮、変形、変色）や、青立ち症状の発生が著しく増加しています。薬剤散布は、莢伸長期（開花 20 日後）と、子実肥大中期（開花 40 日後）の 2 回散布を基本としましょ

- 吸汁性カメムシ類は移動性が高いため、無人ヘリなどによる広域一斉防除を行いましょ
- どうしても 2 回防除が難しい場合は、子実肥大初期（開花 30 日後）に薬剤散布しましょ

# 大豆の冠水後の対策



大豆は浸水・冠水に弱く、冠水数時間で減収する可能性が高くなりますが、植物体が水面上に出ている場合は1～2日程度浸かっても耐えることができます。

しかし、それ以上の浸水・冠水では根や根粒の呼吸が阻害され、立ち枯れ性病害の発生も起こりやすくなり、2日を越える浸水・冠水では40%以上減収するとされています。したがって、できるだけ早くほ場の排水に努めましょう。

## (1) 排水後ほぼ健全な葉色である場合

冠水期間が半日程度で、排水後に葉が黄化していない場合であれば、ほ場の乾燥を待って、速やかに中耕を行いましょう。その際、雑草が繁茂していれば、今後さらに繁茂する可能性があるため、畦間除草をあわせて行いましょう。やや黄化しているようであれば、窒素成分で2～3kg/10aの速効性肥料を追肥した上で中耕を行い、生育を回復させましょう。



**開花期が過ぎている場合、中耕は控えましょう。**

**数日して黄化してくるようであれば尿素等の葉面散布を検討ください。**

## (2) 排水後に葉色が黄化している場合

### ■ 直ちに中耕を実施

排水後に葉が黄化してきた場合は、ほ場を速やかに乾燥させ、直ちに中耕を行いましょう。この場合、より雑草が繁茂し、生育を抑制する可能性があるため除草対策をあわせて実施しましょう。

その際、速効性肥料を窒素成分で4～6kg/10aを追肥しましょう（葉面散布でも可）。



**表面に泥が堆積するとクラストになって酸欠を引き起こします。**

**乗用管理機の車輪等で泥の塊を崩すことが重要です。**

## (3) ほ場(排水溝など)に泥等の堆積物がある場合

### ① 排水溝の点検・補修

ほ場が浸水、あるいは冠水した場合は、一刻も早く排水する必要があります。排水溝に泥等の堆積物がある場合は除去し、土壌表面水の速やかな排水に努めましょう。

### ② 乗用管理機による溝切り

根の健全化を図るため、ほ場表面が乾いてから乗用管理機で畝間を走行するなどして、根圏に酸素を供給しましょう。

## (4) 排水後の病害対策

大豆では浸水・冠水による茎疫病の発生や、倒伏による腐敗粒の発生が懸念されるので、必要に応じて殺菌剤等で防除を行いましょう。



**尿素の葉面散布と兼ねることも可能です。**

栽培技術のお問い合わせは、お近くの普及センターまで